

容器包装の3R推進のための自主行動計画

2011年フォローアップ報告

2010年度自主行動計画報告 (第一次自主行動計画目標年次)

3R推進団体連絡会

ガラスびんリサイクル促進協議会
PETボトルリサイクル推進協議会
紙製容器包装リサイクル推進協議会
プラスチック容器包装リサイクル推進協議会
スチール缶リサイクル協会
アルミ缶リサイクル協会
飲料用紙容器リサイクル協議会
段ボールリサイクル協議会

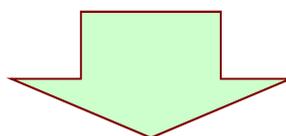
3R推進団体連絡会

容器包装リサイクル法改正の審議過程

事業者の役割
の徹底・深化

主体間連携の
強化

3 R 推進団体連絡会の結成：2005年12月



3 R 推進自主行動計画（2006～2010年度）

2006年3月28日 公表

I. 事業者による 3 R 推進に向けた自主行動計画

2010年度推進目標（基準年度2004年）

Reduce
リデュース

- 軽量化・薄肉化による使用量削減（数値目標）
- 適正包装の推進
- 詰め替え容器の開発

Reuse
リユース

- リターナブルシステムの調査・研究

Recycle
リサイクル

- リサイクル率・回収率・カレット利用率等の維持・向上（数値目標）
- つぶしやすい容器包装の開発
- 洗浄・分別排出への啓発
- 減容化機器の調査・開発
- リサイクルしづらいラベルの廃止、及び剥がしやすいラベルの工夫
- 複合材の見直し
- 自主回収の研究・拡大

Ⅱ. 主体間の連携に資する取組み

消費者に対する普及啓発活動や、各種調査・研究活動への参画・実施を通じ**消費者・自治体・国**等との連携に資する取組みを展開しました。

関係八団体共同の
取組み

容器包装廃棄物の3R推進普及啓発のため、

- フォーラムの開催
- セミナーの開催
- 各団体ホームページのリンク化・共通ページの作成等による、
情報提供の拡充

各団体が取り組む
共通のテーマ

- 情報提供・普及活動(各団体の既存の取組みの活用も含む)
 - ・環境展等の展示会への出展協力及び充実
 - ・3R推進・普及啓発のための自治体・NPO・学校等主催のイベント・研究会への協賛と参加、そして、協力
 - ・3R推進・普及啓発のための共同ポスター等の作成
- 調査・研究
 - ・分別収集・選別保管の高度化・効率化等の研究
 - ・分別収集効率化等のモデル実験への協力

第一次自主行動計画フォローアップ報告内容

I. 事業者による3R推進の2010年目標年次実績概要

- リデュース：8素材中7素材で2010年度目標を達成しました。
- リユース：リターナブルシステムの調査研究を行いました。
- リサイクル：8素材中5素材で目標を達成しました。

II. 主体間の連携に資する取り組み

■八団体共同の取り組みの展開

- 独自企画の連携イベント開催：フォーラム、セミナー、3Rリーダー交流会等
- 各種展示会への共同出展
- ACジャパン(旧：公共広告機構)で容器包装のリサイクルをPR

■共通テーマ(普及啓発と調査研究)に基づく各団体の取り組みの展開

事業者による3R推進の2010年度実績 『リデュース』



- 軽量化・薄肉化による使用量削減
(数値目標を含む)
- 適正包装の推進
- 詰め替え容器の開発

リデュース

- 地球資源の保護の観点から優先的に取り組むべき事項として、循環型社会形成推進基本法にも掲げられています。
- 連絡会では、容器包装の軽量化・薄肉化や適正化等に取り組んできました。

8素材中の7素材で軽量化目標を達成しました。

リデュース 軽量化・薄肉化等による使用量削減(数値目標)

素材	2010年度目標 (2004年度比)	2009年度 実績(参考)	2010年度実績 (削減量の5年間累計)
ガラス びん	1本あたりの平均 重量 1.5% 軽量化	1本あたり平均重量 1.4% 軽量化	1.7% 軽量化 (92.2千t)
PET ボトル	主な容器サイズ・用 途ごとの1本あたり 重量 3% 軽量化	主な容器サイズ・用途 計15種の内 13種 で 0.3~15.0% 軽量化	13種 で 0.2~19% 軽 量化。 9種 で 3% の目標 を達成。全体の軽量化 率は 7.6% (165千t)
紙製容器 包装	2% 削減	10.7% 削減	6.7% 削減 (358千t)
プラス チック 製容器 包装	3% 削減	9.1% 削減	9.8% 削減 (51.4千t)

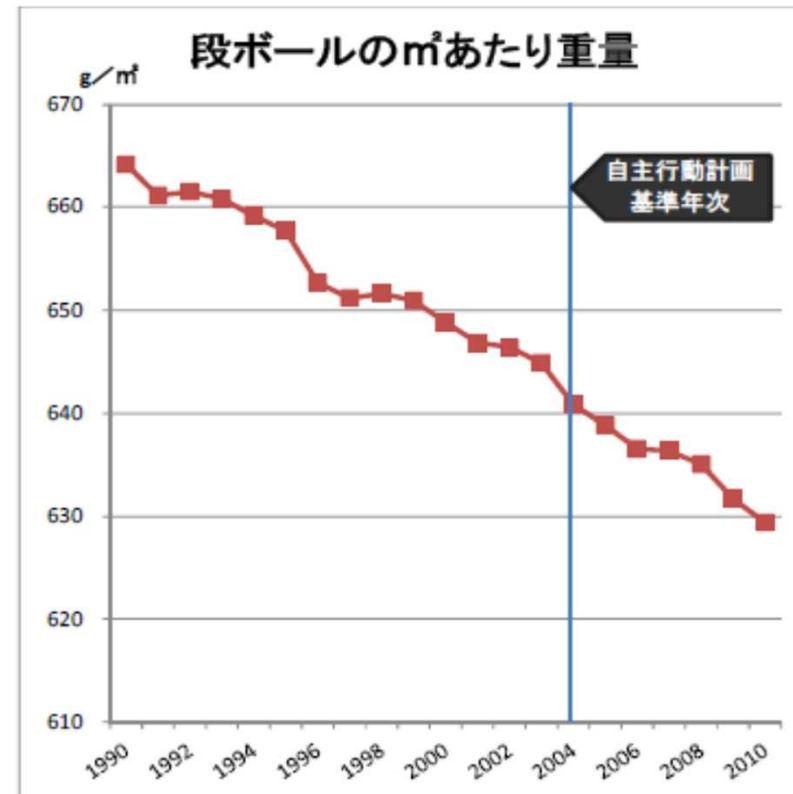
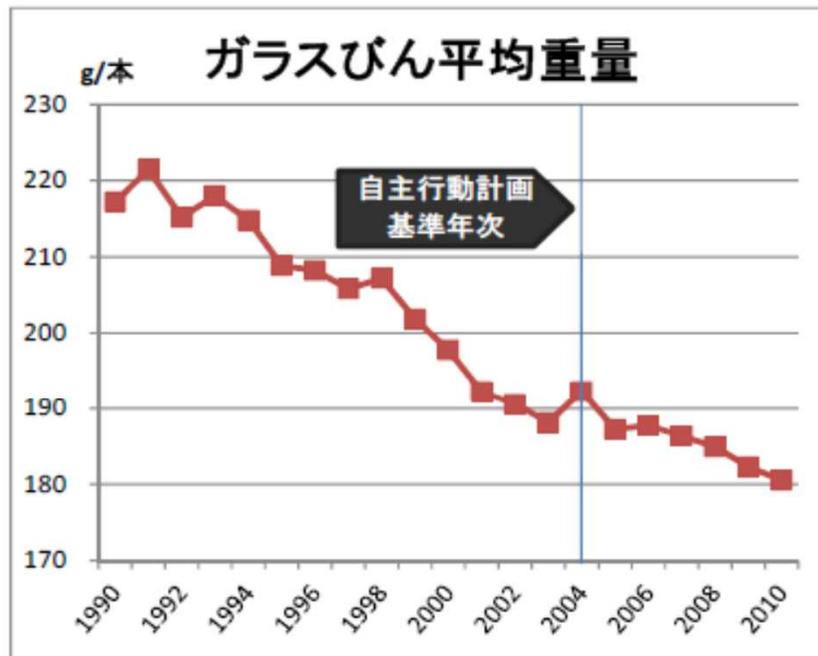
リデュース 軽量化・薄肉化等による使用量削減(数値目標)

素材	2010年度目標 (2004年度比)	2009年度 実績(参考)	2010年度 (削減量5年間累計)
スチール 缶	1缶あたり平均 重量で 2% 軽量化	1缶あたり平均 重量 3.4% 軽量化	1缶あたり平均重量 4.1% 軽量化 (49.4千t)
<p>海外の原紙メーカーと連携し軽量化の検討を進めてきましたが、第二次自主 行動計画においてあらためて軽量化の数値目標を設定します。</p>			
飲料用 紙容器	重量を平均 1% 軽量化	現状維持	現状維持
段ボール	1㎡あたりの重量 を 1% 軽量化	1㎡あたり 1.4% 軽量化	1㎡あたり平均重量 1.8% 軽量化 (529千t)

参考：2004基準年以前の軽量化推移例として

コラム～自主行動計画策定以前の取り組み例～

各容器包装の製造・利用事業者、事業者団体は、中身製品の安全・安心を保ちつつ、資源の利用量を削減し、環境負荷を削減するための取り組みを、自主行動計画が策定された2005年以前から続けてきています。



ガラスびんや段ボールの軽量化の例

事業者による3R推進の2010年度実績 『リユース』

Reuse
リユース

リターナブルシステムの調査・研究

ガラスびん

リターナブルびんの存続には、各主体との連携した取り組みが必須です。

●システムの在り方

ガラスびんリサイクル促進協議会では、2010年より地域型びんリユースシステム再構築に向けた取り組みを行い、環境省の「我が国におけるびんリユースシステムの在り方に関する検討会」に参加しました。

●モデル事業

びんリユース実証事業の取り組み準備をはかり、新たな推進体制として「びんリユース推進全国協議会」(2011年9月設立)の立ち上げ準備を行いました。

事業者による3R推進の2010年度実績 『リユース』

PETボトル

PETボトルリサイクル推進協議会が参画した環境省主管の「PETボトルを始めとするリユース・デポジット等の循環的利用に関する研究会」において、PETボトルのリユースに関し、環境負荷および安全衛生上の観点から一定の結論が得られました。(2009年8月公表)

- リターナブルPETボトルは、回収率が90%以上で、輸送距離が100km未満という限られた条件下においてのみ、ワンウェイPETボトルより環境負荷が小さい。
- 誤用など予期せぬ汚染があった場合、現在の洗浄・検査技術では100%の除去は困難である。

以上の結果が得られことから、PETボトルのリユースに関する調査研究を終了といたします。

事業者による3R推進の2010年度実績

『リサイクル』

Recycle
リサイクル

- リサイクル率・回収率・カレット利用率等の維持・向上（数値目標設定）
- つぶしやすい容器包装の開発
- 洗浄・分別排出への啓発
- 減容化機器の調査・開発
- リサイクルしづらいラベルの廃止、及び剥がしやすいラベルの工夫
- 複合材の見直し
- 自主回収の研究・拡大

8素材中の5素材が数値目標を達成しました。

リサイクル率・回収率等の維持・向上(数値目標)

素材	指標	2010年度 目標	2004年度 実績	2010年度 実績
ガラス びん	カレット利用率 (リサイクル率)	91% (70%)	85.7%	96.8% (67.1%)
PET ボトル	回収率	75%	65.3%	72.1%
紙製容器 包装	回収率	20%	12.7%	20.3% (内行政回収13.9%)
プラス チック 製容器包装	収集率	75%	56.3%	60.1%

2004年度
比較

6.1ポイント↑

9.8ポイント↑

7.3ポイント↑

18.8ポイント↑

リサイクル率・回収率等の維持・向上(数値目標)

素材	指標	2010年度目標	2004年度比較	2010年度実績
スチール缶	リサイクル率	85%	2.3ポイント↑	89.4%
アルミ缶	リサイクル率	90%	6.5ポイント↑	92.6%
飲料用紙容器	回収率	50%	8.1ポイント↑	43.6%
段ボール	回収率	90%	12.1ポイント↑	99.3%

分別排出、収集は着実に進展いたしました。

リサイクル リサイクル性の向上

つぶしやすい容器包装の開発

- **PETボトル**: 「PETボトル改善事例集」をまとめ、2010年実績として2会員企業にての3件の具体例を掲載。
- **段ボール**: たたみ易い段ボールの具体例を調査しホームページに掲載。

減容化可能容器、複合素材についての研究・開発、その他等

- **プラスチック製容器包装**: プラ推進協の会員である日本プラスチック工業連盟にて「プラスチック容器包装の機能と環境配慮」をとりまとめた。
- **ガラスびん**: アルミ箔を使用しない等、ガラスびんの自主設計ガイドラインに基づき、びんメーカー、主要ボトラー団体への協力要請を引き続き行った。

リサイクル 自主回収／識別表示等の推進

自主回収の研究・拡大

- **紙製容器包装**: 自主的回収の仕組みづくりとして、市民団体との協働による「酒パックリサイクル協議会」の活動を支援。
- **スチール缶**: 全国的なスチール缶の市況の調査や、離島・山間部におけるスチール缶を含む容器包装の分別収集・再資源化の状況調査等を実施。
- **アルミ缶**: 集団回収の支援・拡大のため、優れた回収団体・全国小中学校の表彰を実施。
- **飲料用紙容器**: 紙パック回収ボックスを学校、自治体、市民団体、作業所事業者施設等へ 2,195個(過去累計で20,265個)を配付。当初目標の1万個を突破し、新目標の2万個も達成。

その他 識別表示等の推進

- 容器包装への識別表示の実施率の向上
- 自主設計ガイドラインの策定・運用による環境配慮設計の推進

主体間の連携に資する取り組み実績概要 『八団体共同の取り組み』

主体間の連携に資する取組みの一環として

関係八団体共同の
取り組み

- 容器包装廃棄物の3R推進普及啓発のため、
- フォーラムの開催・・・自治体担当者を主な対象として
 - セミナーの開催・・・様々な主体と共によりよい仕組みづくりをめざして
 - 各団体ホームページのリンク化・共通ページの作成等による、情報提供の拡充

**2006年度より3R推進団体連絡会
にて取組みを開始**

主体間の連携に資する取り組み実績概要 『八団体共同の取り組み』

2010年度の取組み

■フォーラム

- 『容器包装3R推進フォーラムinさいたま』（'10年10/25～26）

■セミナー

- 『容器包装3R連携セミナーin名古屋』（'11年/2/5）

■容器包装3R制度研究会

- よりよい3Rの制度に向け、消費者・自治体・学識者を交え、現行制度の改良・改善の課題、法見直しの主要な論点を協議

■展示会への共同出展

- 東京パック2010（'10年10/5～8 東京ビッグサイト）
- エコプロダクツ2011（'11年12/15～17 東京ビッグサイト）

年 度	2006 年	2007 年	2008 年	2009 年	2010 年	2011 年
容器包装 3R推進 フォーラム	横浜市 8/29・30	神戸市 9/19・20	東京都 10/6・7	京都市 10/22・23	さいたま市 10/25・26	名古屋市 10/24・25
容器包装 3R セミナー	東京都 '07/2/28	北九州市 10/19 川崎市 '08/2/18	京都市 '09/3/7	仙台市 '10/2/2	名古屋市 '11/2/5	福岡市 (予定) '12/1/20
3R リーダー 交流会		交流会を 4 回実施	交流会を 5 回実施	3R 啓発小冊子 「リサイクルの基本」 を作成	3R 啓発小冊子 「リサイクルの基本」 完成・配付	「リサイクルの基 本」地域版 ワークショップ 川崎市
展示会への 共同出展	3R 活動推進 フォーラム 全国大会 10/19～21 名古屋市 エコプロダクツ展 12/14～16 東京都	3R 活動推進 フォーラム 全国大会 10/17～19 北九州市 エコプロダクツ展 12/14～16 東京都	3R 活動推進 フォーラム 全国大会 10/24～26 山形市 エコプロダクツ展 12/14～16 東京都	3R 活動推進 フォーラム 全国大会 10/16～18 千葉市 エコプロダクツ展 12/14～16 東京都	2010 東京国際包装展 (東京パック 2010) 10/5～8 東京都 エコプロダクツ展 12/9～11 東京都	エコプロダクツ展 12/15～17 東京都
AC 支援によ る啓発事業			なくなるといいな 「ごみ」 という言葉	リサイクルの夢	ちょっとだけ バイバイ	
マスコミ セミナー・ 交流会				消費者の 3R 行 動に影響するマス コミ報道を考える 9/18 東京都	マスコミ関係者と 3R 推進団体が 語り合う懇談会 8/26・11/26 東京都	市民リーダー3R 推進モデル講座
各主体の 参画する 研究会					容器包装3R 制度研究会 (年 3 回実施)	容器包装3R 制度研究会 (年 2 回実施)
消費者意識 調査				第 1 回調査		第 2 回調査
その他	共通ポスター 作成 各団体のホーム ページリンク化		ホームページの 開設	(財)クリーン・ ジャパン・センタ ーへの 3R 学習 教材用サンプル 提供	経産省でのパネ ル展示に協力 せたがや・環境 行動 DAY2010 への出典協力	報告書P10

『リサイクルの基本』を全国に配布

<3Rリーダー交流会>

消費者リーダーの10名と当連絡会の交流会を3年間にわたって実施し

“様々な立場の市民”

“地域のリーダー”

“自治体担当者”

それぞれの方々にとって必要と考えられる情報の提供ツールとして小冊子『リサイクルの基本』を作成2010年7月全国自治体に配布して好評を得ました。その後も累計で4000部以上に追加配布いたしました。



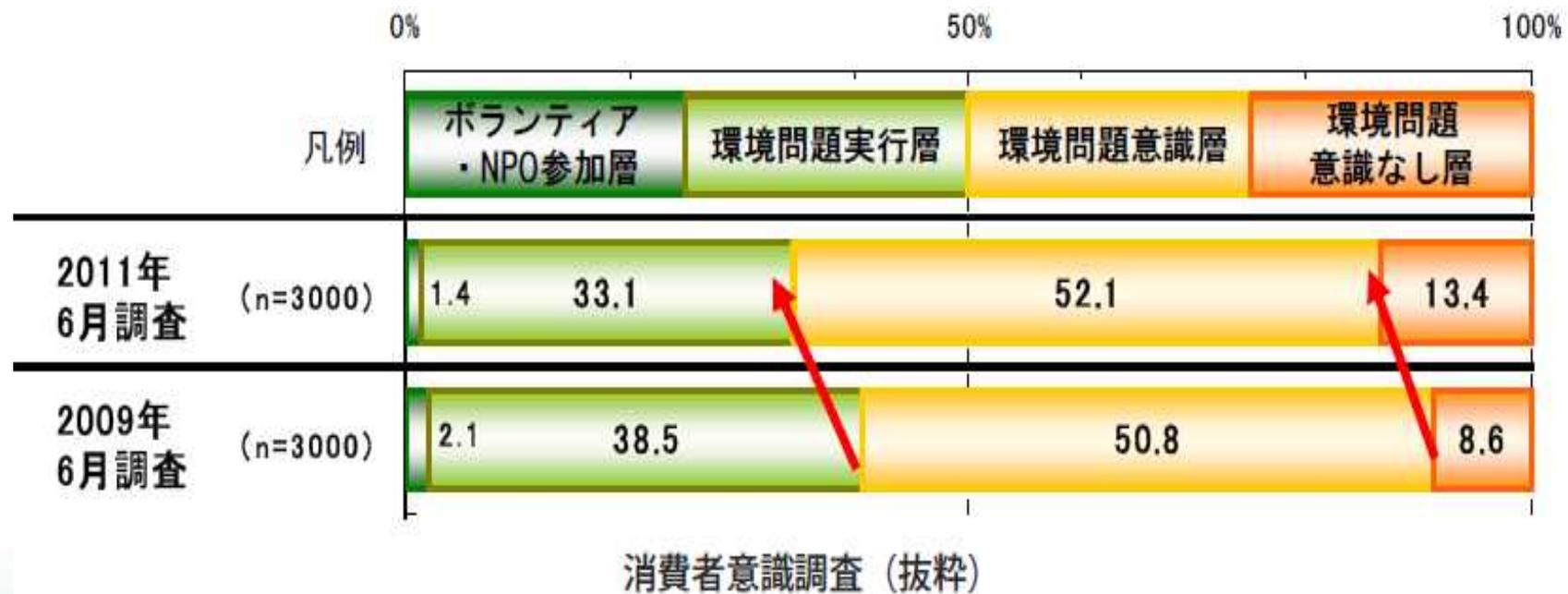
展示会への出展

日本最大の環境イベントである「エコプロダクツ2010」に
3R推進団体連絡会として出展（'10年12月9日～11日）



調査研究事業：09年、11年に消費者意識調査を実施

09年、11年の2度にわたり諸費者アンケート(インターネット調査)を実施のところ、環境問題に係る意識・行動で、09年時に比して「環境問題実行層」が5ポイント減少し、「環境問題意識なし層」が5ポイント増加。



共同の取り組み ACジャパン 支援による啓発

- ACジャパン(旧:公共広告機構)の支援事業として、
3R推進啓発広告を2008年度から展開
- 媒体:テレビスポット広告(15・30秒)、ラジオスポット広告(20・40秒)
新聞広告(全5段・7段)及び雑誌
- 普段ごみ問題にあまり関心を持っていない層にも届く、事業者団体
ならではの効果的な普及啓発活動と位置付け

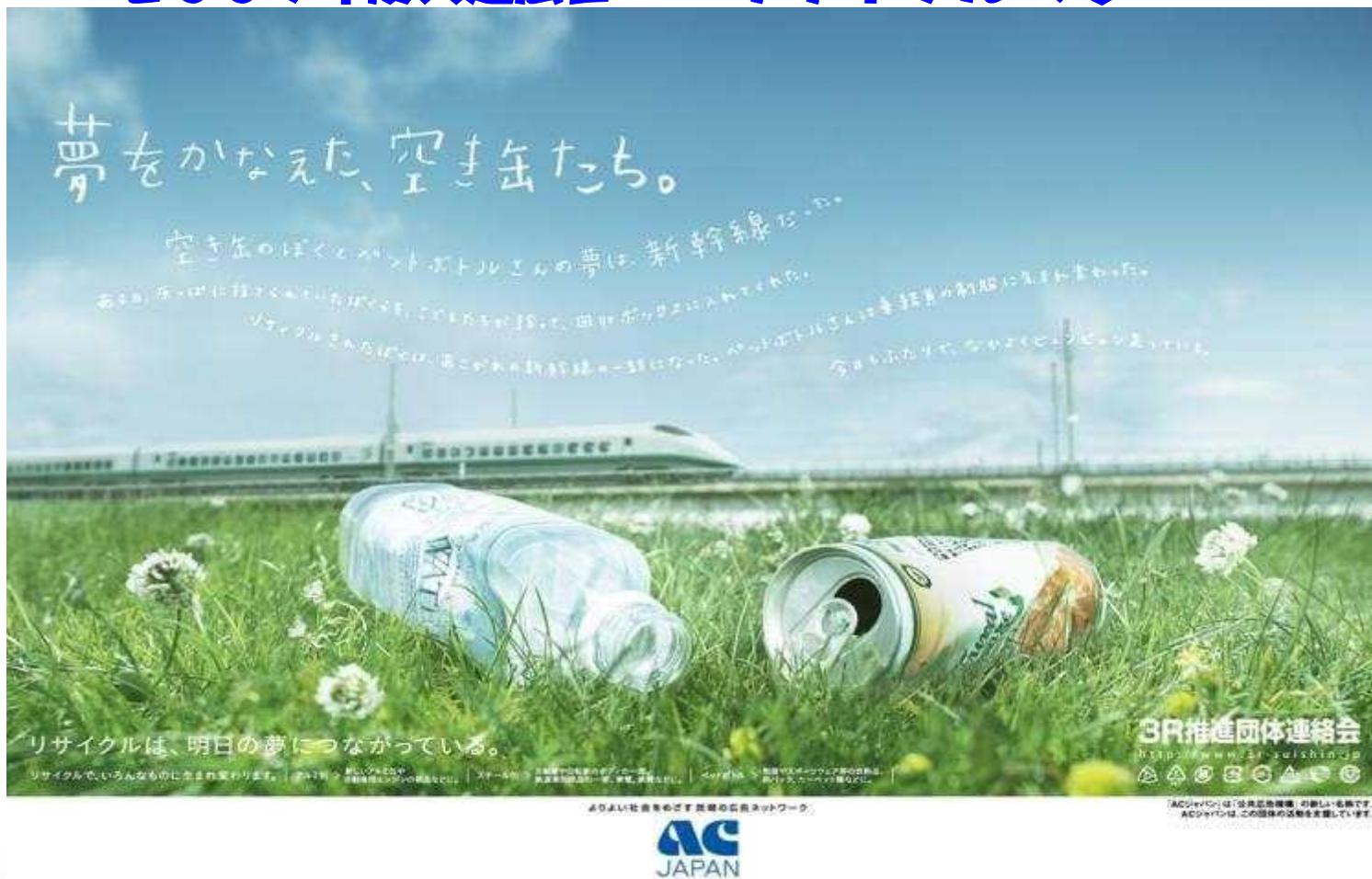
2008年度: なくなるという「ごみ」という言葉



「第49回 消費者のためになった広告コンクール」テレビ広告 公共広告ブロック 銀賞受賞

共同の取り組み ACジャパン支援による啓発

2009年度交通広告 《リサイクルの夢》



環境省主催「第13回環境コミュニケーション大賞」テレビ環境CM部門優秀賞 受賞

共同の取り組み ‘10年 ACジャパン支援による啓発

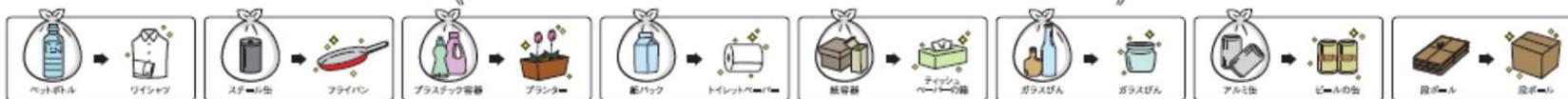


3R推進団体連絡会
<http://www.3r-suishin.jp>

正しく分けて、
 ちょっとだけ
 バイバイ。👋

たとえば、ペットボトル。
 正しく分けて回収してもらえると、
 新しい命を得て、ワイシャツやネクタイ、エプロンなどに
 生まれ変わることができます。
 資源ごみに「ずっとお別れ」するんじゃなくて、
 ちょっとだけのお別れです。

あれも、これも、資源ごみの生まれ変わり。リサイクルで、また会おうね。!



※上図はリサイクルの一例です。

社団法人「ACジャパン」は「公共広告機構」の新しい名称です。
 ACジャパンは、この団体の活動を支援しています。

民間の広告ネットワーク



次期(第二次)自主行動計画に向けて

第一次自主行動計画の成果を踏まえ、より一層の3Rの推進に取り組むべく、2011年3月に目標年度を2015年とする『第二次自主行動計画』を策定し、公表いたしました。その内容は当連絡会のホームページに掲載していますので、是非ご参照ください。引き続き消費者・自治体・国、そして報道関係の方々等関係者の皆さまのご指導、ご協力を賜りますようお願い致します。

本日はありがとうございました。